

# 平成27年度 総務常任委員会行政視察報告書

1 日 時 平成27年7月13日(月)から7月14日(火)

2 視 察 先 ◇滋賀県高島市  
・人口減少問題について  
◇兵庫県宍粟市  
・人口減少問題について

3 参加者 委 員 長 清水 正照  
(7名) 副 委 員 長 田中 和幸  
委 員 尾村 忠雄、武藤 忠樹、上田 謙市、野田 龍雄  
議会事務局議会総務課長 古川 義幸

4 研修結果 以下のとおり

◎滋賀県高島市 (H27.7.13 9:55~12:04)

○来訪あいさつ

●清水郡上市議会総務常任委員長

○高島市企画調整課の説明

●説明者：上山 政策部次長兼企画調整課長

青谷 政策部企画調整課主監兼政策推進室長

荒木 政策部企画調整課主任

## 1 高島市の人口問題

### (1) 現状分析・長期予想

人口の動向分析を見ると平成12年以降の人口減少が続き、出生数は長期的に減少傾向である。若年層の転出超過が続いている。人口52,486人(平成22年)その内高齢者人口14,640人で27.9%であり、平成27年の推計では人口28,433人で、高齢化率44.1%となっている。

### (2) 地域の将来に与える影響

農林水産業など地域の担い手の減少、産業の衰退、農地・山林の荒廃、高齢化の進展により需要が増加する介護、医療福祉分野の人材不足、税収減等による公共サービスの低下、その他生産年齢人口の減少により地域経済規模縮小、地域コミュニティや集落機能の維持が困難になる。

### (3) 人口の将来展望

目指すべき将来の方向は、人口の年齢構成の適正化と、将来にわたって自律的で持続可能な地域社会を維持することである。

## 2 総合戦略、具体的な施策(基本目標と基本的方向)

### (1) 高島市における安定した雇用を創出する

雇用機会や創出につながる地域特性を活かした産業振興に取り組む。具体的施策として特産品国内販売戦略事業、農林水産物6次産業化事業企業誘致推進事業、重要文化的景観を活かした観光振興事業、高齢者雇用企業支援事業、琵琶湖高島えんむすび事業など。

(2) 高島市への新しい人の流れをつくる

移住の受け皿に関する環境整備を行うとともに移住希望者への情報提供や各種相談業務に取り組む。具体的な施策として、若者定住促進住宅地整備事業、琵琶湖高島ブランド戦略推進事業、大学研究施設誘致事業、地域連携による高校生キャリアデザイン事業、移住定住コンシェルジュ事業、高島版半農半X支援事業など。

(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

結婚・妊娠・出産・子育てについて切れ目のない支援を行う。具体的な施策として子ども医療費助成事業、放課後児童健全育成事業、幼・保・小・中の連携による教育力強化事業、保育園・幼稚園運営事業、女性起業支援事業、出会いから子育てまでの支援事業など。

(4) 好循環を支える「まち」の活性化

時代に合った地域を作り安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携する。  
人口減少により地域で生じる様々な課題を解決し、特続可能な社会をつくる。  
具体的な施策として、集落再編・強化事業、地域を支えるまちづくり組織支援事業、公共施設の再編と地域処点づくり事業、住民参加型まち普請事業、高島版コンパクト推進事業など。

### 3 空き家対策

(1) 空き家紹介システム

高島市内の空き家を、有効活用し高島市への定住を促進し、地域の活性化をはかるとともに、地域の環境保全をはかる。

(2) チラシの作成

今の家に住んでくれる人を探したい。所有しているけど管理が大変。借り手、買い手を見つけない方法がわからない。まずは高島市役所までご相談ください。空き家を活用して暮らしやすい高島市を作り、人口減少に立ち向いましょう。

(3) 空き家の登録

空き家紹介システム物件登録申込書及び登録カードを市長に提出。

(4) 定住住宅リフォーム補助事業

市内に転入しようとする方または転入後3年を経過しない方。

市内に住む40歳未満の方

市内に住む小学校6年生までの子を扶養し、同居する方。



会議の様子（高島市）

## 質問（Q）と回答（A）

Q 資料にある地域通貨「アイカ」とはどのようなものか。

A 市の補助金を利用して、商工会で地域内で使い回しが出来る通貨を作っている。

Q 空き家を貸す場合に仏壇の問題はないか。

A 根本的に貸したくない人である。朽ちかけた家屋になると大変になるので、その前に手立てが必要。地域の人意見が必要。

Q 定住相談の実績がたいへん多い理由はなにか。

A 相談窓口がNPO法人などよりは市役所の方が信頼があるのではないかと。職員が相談をしなくとも、窓口が市役所にあるとよい。

Q ハローワークの移住者への仕事の紹介状況はどうか。

A 高島市へ来て前の職種で同程度の給料を求められても該当するところはない。違うもの、新しいものを求めて来てほしい。働くところがないという割には企業側では来てくれる人がいないと言っている。ここを解消していきたい。企業はハローワークに情報を出さないが、良い人がいれば採用したいと思っている。ハローワークにない情報を企業から得ていきたい。

Q テレワークの状況はどうか。

A インターネット環境は、光ファイバーを合併以来整備してきており、関西電力関係でも整備を進めているが、これを売りにはしていない。

Q 移住の相談件数が多い。移住定住コンシェルジュを1名から2名に増やしているが、どのように選んでいるのか。

A 相談件数が多いのは、フェイスブックやブログにも対応できるように、いろいろなツールを使って情報をこまめに発信しているためでないか。国の緊急対策によりハローワークを通して採用している。高校で就職を担当していた方を採用した。企業回りをして仕事を紹介していきたい。企業の提案も重要なものがある。

Q アンケート結果を見ると住まいの希望は賃貸一戸建てが56%と多いが、一戸建ての売買は21%となっていることについて。

A 第一希望をアパートとする者は少ない。一戸建ては家賃との関係もありすぐに決まるものではない。売買一戸建てはさらに価格の折り合いに難しいものがある。宅建業者による評価アドバイスをしている。移住してきてほしいが、家賃補助などを出さず気はない。地域の人よりも来た人の方が手厚くならないようにしたい。

Q リフォーム補助金の利用状況は。

A それほど利用件数はないので、需要に応えられていないのかもしれないが、高齢者向けのリフォームや耐震補強の補助金とのバランスが必要。不動産業者が扱う以上、家賃が1万円や2万円では商売にならない。家主がリフォームしても回収に時間がかかるので、

安い物件は取り扱えない。

○お礼あいさつ

●田中郡上市議会総務常任委員会副委員長

◎兵庫県宍粟市（9:34～11:31）

○歓迎あいさつ

●秋田 宍粟市議会議長

○来訪あいさつ

●清水郡上市議会総務常任委員長

○人口減少問題について

●説明者：坂根 まちづくり推進部長  
樽本 まちづくり推進部市民協働課長  
名畑 企画総務部長

人口減少対策の戦略策定の視点

1 地域創生総合戦略について

4つの柱に基づき人口減少対策の戦略を講じていく。

(1) 「住む」

集落・地域の活性化と宍粟市への移住促進。集落・地域の活性化・移住希望者の受け入れ促進に向けた体制の構築。

(2) 「働く」

雇用の創出と就職支援。地元企業・事業者の育成と発展。雇用の場の確保。若者の就職支援の促進。

(3) 「生み育てる」

少子化対策。ライフプランを考える機会の創出・安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり・仕事と家庭をともに大切にするまちづくり（ワーク・ライフバランス）

(4) 「まちの魅力」

選ばれる街づくり。広域連携による宍粟市の魅力向上。

移住促進につながる交流の活発化。

宍粟市空き家バンク実施要綱

市内の空き家を有効活用し都市住民との交流及び定住促進による、地域の活性化を図るために実施する、空き家情報登録制度に関し、必要な事項を定める。

## 2 空き家バンク実施要項

### (1) 空き家バンク

空き家の売却、または賃貸等を希望する所有者等から、申し込みを受けた情報を、本市への定住等を目的として空き家の利用を希望する者に対し紹介をする制度をいう。また空き家バンクへ空き家の登録をしようとする所有者は、空き家バンク登録申込書および登録カードを市長に提出しなければならない。

### (2) 利用登録及び情報提供

空き家バンクを利用しようとする者は空き家バンク利用登録申込書・利用者登録カード及び誓約書を市長に提出しなければならない。

### (3) 定住アドバイザーの設置

市長は利用登録者の本市への定住を支援するため、市内の生活情報、習慣その他の利用登録者が必要とする情報を提供又は助言する定住アドバイザーを設置することが出来る。定住アドバイザーは市内に転居、物件のある地域に住んでいる者のうちから市長が委嘱する。



会議の様子（宋栗市）

### 質問（Q）と回答（A）

Q 郡上市の地域協議会は人口的に差があり、多いところは運営が難しいと思われるが、宋栗市のまちづくり協議会の運営はどうか。活動の費用はどうか。

A 現在は4町のまちづくり協議会だけであるが、動きにくいという意見が出て来たため、これを学校区などで15組織、1つ3,000規模でやっていきたい。小さい単位の方が課題もまとめやすい。兵庫県がアドバイザー派遣を行っているので、紹介していただいた外部のアドバイザーをファシリテーターとして設置して進めていきたい。支援としては、計画書の提出により交付金として支出して行きたい。

Q まちづくり協議会のテーマは人口減少にしていくのか。

A 数字的に大きく減っている地域とそれほど減っていない地域があり、課題の認識が地域により若干違っており、同じ目線で見るとは難しい。

Q 月1世帯2万5,000円、子どもひとり年額2万5,000円の定住促進支援事業により定住者が増えている理由は。

A 空き家等管理条例を制定したことに伴い、定住促進支援事業や空き家活用のための改修補助制度を強化した中に、市内の若者が市内に留まるように、若者定住促進助成事業を追加した。大きな金額の助成ではないので、これが留まる理由になっているかは分からないが、空き家での田舎暮らしをメディアで取り上げられるようになってきたので、市のホー

ムページも見られる方が多くなった。

Q 空き家バンクに39件の登録があって、この内18件が成立しており、高い成立数である。

A 空き家バンクの活用は、宅建業者との連携により価格表記をしたことにより問い合わせが非常に増えた。ホームページもリニューアルをした。空き家の案内は職員が行うこととし、契約行為は宅建業者が行っている。

Q 通勤通学の助成について。

A 宍粟市を含めた西播磨管内から東播磨・神戸などの阪神間までは、公共交通がバスしかないが、1時間半から2時間程度の範囲であるので、この範囲までは通えるという区域設定をして、今年から助成を出していくことにした。

Q 婚活の取組状況はどうか。

A 社会福祉協議会がNPO法人などを通して行っている。消防団員の未婚者が多いため、今年度団員を対象に婚活イベントを行った。NPO法人に市外からも女性を集めいただいた結果、予定数を超える応募があり、4組が成立した。

Q 播磨圏域として連携して人口問題に取り組んでいるが、宍粟市としてのアピールするところは何か。

A 北部が活性化することで人口の流入や交流人口の増加が考えられるため、重点的に力を入れている。音水湖のカヌーで町おこしを考えており、学生の大会などを行っているが、国際大会の誘致に向けた活動も行っている。

Q 地方創生の総合戦略としての4つの柱のうち、林業についての戦略は。

A 宍粟市は面積が大きく90%が山林である。森林管理署があり、県立山の学校や高校の林業科など山林関係のベースがある。兵庫木材センターは市で造成して貸し付けをしている。市内に粗材業者は18業者あるが、後継者育成が必要として国と市で人件費の一部を助成している。将来的には農地付きとか山林付きの空き家の活用を考えていかなければならないと思っている。

Q ホームページにふるさと市民の事が載っていたがどういうものか。

A 有料で登録をして、広報誌などを送っていたが、宍粟市出身者だけでなく、応援してもらう人も会員になっていただくように無料にしたところ非常に会員が増えている。

Q 定住支援ガイドブックに掲載されているラジオ放送について。

A 西播磨県民局との関係でラジオ放送を始めたもので、田舎暮らし体験として空き家を改修していたので、ラジオパーソナリティーがそこに住んで地域づくりや市の情報をラジオ中継している。

Q 定住促進支援事業の引っ越しへの助成の実績はどうか。

A 平成23年度1件、平成24年度1件、平成25年度5件、平成26年度9件となっている。子どもがいる若い夫婦の利用が多い。

Q 定住促進支援事業実施要綱にあった定住者へのマイツリー助成を廃止した理由は。

A 1メートル20センチ程度の記念樹を贈るとしていたが、利用実績が少なかったためであり、定住者支援を行うことを含めて廃止した。

○お礼あいさつ

●田中郡上市議会総務常任委員会副委員長

## 所感

### 滋賀県高島市

人口減少問題について、総合戦略として農林水産物の6次産業化、企業誘致、重要文化的景観を活かした観光振興事業など、積極的な基本目標を打ち出して見えるのは、目をみはるところがありました。

又移住者への受け皿として、希望者への情報提供や、若者定住促進住宅地整備事業など郡上市としても見習うところがあると思います。

子育て事業については、郡上市のほうが、少し進んでいるのではないかと思いましたが、公共施設の再編と地域処点づくり事業は、郡上市も同じ悩みを抱えていると思いました。

空き家対策について、空き家紹介システム物件カードを作成するなど、そのほか空き家リフォーム補助事業も一般に呼びかけ、相談を受け付けておられるのは、郡上市も見習うところが有ると思いました。

### 兵庫県宍粟市

人口の減少対策戦略を策定され、頑張っているのが伺われます。移住希望者に地元の企業へ就職の斡旋や、子育て支援など、見習うところがあり、郡上市ももっと移住促進を図り、移住希望者に対しての特典を多くPRしなければならないと思いました。

空き家対策については、空き家バンクを実施しておられ、その中に定住アドバイザーを市長が委嘱され、空き家と連携して積極的な活動をされており、郡上市も見習うところが有ると思います。

さらに見習うところは引っ越し費用として、一世帯に対して5万円の奨励金を支給されるとともに、中学生以下の子どもには一人につき5万円支給されるなど、その他にもいくつかの助成事業をされ、定住促進事業には大変な力の入れようであると感じました。郡上市も大いに見習うところが有ると思います。

◎委員会視察経費

視察費 280,530円（議会費のみ、事務局職員旅費を含む）  
1人当たり 46,755円（6人）

以上、行政視察の結果について報告します。

平成27年10月7日

郡上市議会議長 尾村 忠雄 様

郡上市議会総務常任委員会  
委員長 清水 正照